

公園の花と緑に元気づけられて…

青山 邦夫 福島県喜多方市 七十歳

私の町、そして隣接する二つの町の計三町内は、その中心にある公園の花壇の花づくりで、毎年密接につながっている。三年に一度、当番町内が回ってくるが、その町内を中心として協力し合い、日々草・マリーゴールド・サルビアの三種の花を栽培している。五月当初の花壇の耕し、整地、肥料まきから始まり、秋の花壇の後始末まで、花の成長に対する期待感と責任感を持って毎日が始まる。私が区長になってから五年間、この三種の花の組み合わせは全く変わっていない。日々草の白やマリーゴールドの黄、そしてサルビアの赤の花々が公園の中央の花壇に咲き誇る時、手入れをしている私たちは何とも言えない喜びを感じている。朝、近くの人が犬を連れて散歩したり、昼、親子連れが公園の遊具で遊んだ後に花壇の花を見に來たり、そして花をバックにして写真を撮ったりしてくつろいでいる様子を見ると、この花壇が公園を訪れる人たちの「癒し」になっているんだと思う。

市では毎年、「花でもてなす喜多方」花いっぱいコンクールを行っているが、最近の四年間で三回入賞し、昨年度は最優秀賞を受賞した。入賞するだけが目当てではないが、意欲や励みにもなる。年々、花壇周辺や公園全体のゴミも減っていて、この公園を利用する人の数も増えている。そんな中、古希を迎えた今、私にとっても生活に潤いを感じている。

私の方こそ、花と緑の公園の環境に元気をもらっているのかもしれない。